

【テーマ】

「エレベーターあれこれ」

私の職場は渋谷駅から 15 分ほど歩いたところ、立ち並ぶ雑居ビルの一角にあります。2、3年前に職場が入っているビルのエレベーターが新しくなりました。かごの中には小さなモニターが設置され、平時には四季折々の映像や4文字熟語のクイズなどが繰り返し映し出されます。天井に付いているカメラとも連動していて、災害などでエレベーターが停止した時には、これらを使って外部と連絡がとれるようになっています。

昨年、総理大臣官邸内のエレベーターが故障し、乗っていた官房長官らがおよそ 30 分間にわたって中に閉じ込められるトラブルが発生し閣議を欠席したというニュースが流れました。実は私もエレベーターに閉じ込められたことがあります。2017 年福岡で開催された全国ろうあ者大会のツアーで訪れた韓国のホテル内でのことです。ろう者、健聴者あわせて 20 名ぐらいが載っていたのですが 8 階と 7 階の間ぐらいで突然エレベーターが止まりました。エレベーター内の非常ボタンを押して「助けてください」と叫んだのですが、相手は当然韓国語。「ムスンなんとか」「ケンチャンスなんとか」など韓国語らしきことばが聞こえてきますが、意味がわからず、当然こちらの状況も伝えることができません。ろう者の皆さんは健聴者の私たち以上に状況がわからず泣き出す人もいました。数分後に無事エレベーターが動き出した時にはみんな抱き合って喜びました。

羽田空港ではエレベーターのかご内に聴覚障害者に対応した「聴覚ボタン」が配置されており、このボタンが押されると、かご内モニターに「係員が向かっています」という表示が出るそうです。バリアフリー法に基づいた環境整備の取り組みの 1 つです。このような取り組みが町全体にひろがっていけば良いなと思います。

【テーマ】

「大田区基本構想」

大田区では、約 15 年ぶりに新たな大田区基本構想を策定しました。

基本構想は、2040 年ごろの大田区のめざすべき将来像を掲示し、今後のまちづくりの方向性を明らかにした、区の最上位の指針であり、大田区に関わるすべての人々の共通の目標です。

基本構想の実現のために、大田区は5つの方針を掲げています。

1 つ目に、「基本計画」の策定です。2030 年 SDGs の達成や、2050 年脱炭素社会の実現といった、他の重要な目標の達成年次や社会情勢等を踏まえた上で、戦略的に政策を展開します。

2 つ目に、「持続可能な自治体経営」です。人材・財源などの区が有する経営資源の最適化や、デジタル技術を用いた業務の抜本的な変革など、生産性向上に資する取組をまとめた具体的な戦略を策定し、実践します。

3 つ目に、「区民や地域団体、企業との連携・協働」です。様々な機会や手段を通じて、迅速かつ着実に情報発信を行うとともに、区民の声を大切にし、区政への区民の主体的な参画を推進します。

4 つ目に、「シティプロモーションの強化」です。多様な魅力や地域資源を踏まえた戦略的なプロモーションにより、区の認知度やブランドイメージを向上させます。

5 つ目に、「職員一人ひとりの意識・資質の向上」です。新たな知識や技能の習得だけでなく、幅広い視野や経営的な感覚を持ち、多様化する行政課題への迅速・的確な対応に向けた専門性の向上を図ることで、区民サービスの質の向上につなげていきます。

大田区基本構想は、令和6年3月 22 日から、本庁舎2階区政情報コーナー、5階企画課、特別出張所、図書館、大田文化の森、田園調布せせらぎ館で閲覧できるようになっています。ぜひご覧ください。